

## 2017年3月期通期決算説明会における質疑応答

2017年5月9日  
NEC ネットエスアイ株式会社

日時：2017年5月9日（火）

（＊今年度： 2018年3月期、 昨年度： 2017年3月期）

質問者 A

Q：昨年度に受注した大型太陽光発電所建設プロジェクトについて、利益貢献は少ないとの説明でしたが、どのような前提で考えているのですか。

A：エクセリオ社太陽光発電所建設プロジェクトは、今年度に80億円の売上を見込んでいますが、当年度は土木等の工事比率が高いことなどから利益貢献をあまり見込んでおらず、実行していく中で、採算性を上げられるように努力していく考えです。本プロジェクトでは、大型メガソーラー分野の実績を積むことを重視しており、これを次につなげていきたいと考えています。

Q：キャリア関連事業の受注の今後の見方について教えてください。

A：キャリア関連事業は、底打ちはしても低調であると考えており、大きな改善は見込んでいません。

Q：働き方改革については、世の中の注目が高まっていますが、従前と比べて、お客様の変化や商談などの手応えなどがあれば教えてください。

また、在宅勤務関連など、何か今までと違ったソリューションや取り組み等がありますか。

A：当社で実践している EmpoweredOffice の見学者も着実に増加していますが、特に、官公庁のお客様も増えてきているのが最近の特徴です。企業においては、経営者層の見学者が増えており、働き方改革に関して、官民双方での取り組み機運が高まっており、当社にとって追い風となっていると感じています。

働き方改革の注目の1つが在宅勤務などのテレワークですが、実際に企業が取り組むには人事制度等の改革も必要となりハードルが高い面があります。当社は、従来からテレワークの実証実験を重ね、課題や効果を明らかにしてきました。この成果の下で、本年度から実際の制度としてテレワークをスタートさせますが、これらの自らの実践を通じ、ご提案をしていくことが当社の強みであり、今後も加速させていきたいと考えています。

## 質問者 B

Q : 配当について、どの程度の DOE を意識していますか。配当性向はここ 3 年ほど 50%を超えています、どのような考え方を持っていますか。

また、キャッシュが積み上がっていますが、配当以外で考えている使途は何でしょうか。

A : DOE は、一昨年度、昨年度の水準である 3.8%程度を意識しています。一方、配当性向については、昨年度、今年度予想ともに約 55%となっていますが、これは DOE を意識した結果であり、5 割超の配当性向を意識しているものではありません。

キャッシュは、株主還元のほか、M&A を含めた成長投資に使う考えです。当社の課題はトップラインの成長ですので、このために積極的に資金を使っていきたいと考えています。

Q : コスト構造改革として、具体的にはどのような取り組みをされたのでしょうか。

A : ここ 1 ~ 2 年では、キャリア事業の想定以上の減少が最大の課題でしたので、これに対し、リソースの最適配置をダイナミックに実施しました。当社は人が事業の柱であり、伸びる分野に人を配置して利益構造を変えていくという考えです。また、内生化による外注費の削減や、資材費の原価低減を行うことなどにより、収益改善を行いました。これにより、キャリアネットワークの GP 率を大きく改善することができました。

Q : 働き方改革について、EmpoweredOffice 以外での取り組みがあれば教えてください。また、今まで関心がなかった業種や地域からのニーズが高まっているなどの変化がありますか。

A : 2007 年から当社は EmpoweredOffice を提唱し、自社で実践を進めながら、働き方改革に取り組んできましたが、この考え方には大きな変化はありません。昨今、政府の旗の下、働き方改革の意識が高まっていますが、実際には、どう取り組んで良いのかが分からないことがお客様企業の一番の悩みです。その悩みに対し、当社のオフィスを見学していただき、直接目で見て触れてもらいながら、お客様がどう働き方改革に取り組んでいくのか具体化し、提案していきたいと考えています。

業種については、あらゆる業種に関心をもっていると思いますし、地方の企業による見学も増えてきていますが、最近は特に官庁が積極的であり、実際に官庁関連の受注例も出てきています。

質問者 C

Q：今回、次期社長として、NEC 出身者ではなく、NEC ネットエスアイ生え抜きの社長が生まれることになりましたが、それについての考え方を教えてください。

A：社長候補者の選定に当たっては、NEC 出身、NEC ネットエスアイ生え抜きといった視点ではなく、社長として当社の経営を担うに相応しい人材かどうかを判断しています。次期社長候補の牛島取締役は、グループ企業であるキューアンドエー社でも経営経験を積んでいるなど十分な能力を有しており、若さを活かして今後の成長を牽引してくれるものと考えています。

Q：今回、新たな社外取締役として、21LADY 株式会社の広野社長を加えるとのことですが、選任に当たってどのような期待を持たれていますか。また、その他の社外役員も含めて、社外役員採用の考え方を教えてください。

A：広野社長は、経営立直しなどで実績ある経営者で、21LADY グループの(株)洋菓子のヒロタなどの経営を通じ、コンシューマ向け事業など、当社とは違った視点を持っています。このような新たな視点を加えることで、経営が活性化するものと期待しています。

当社は、他社に先駆けて 2006 年に独立役員を導入して以来、独立役員を増強してきました。今回の社外取締役増員で、監査役を含めて独立役員が 5 名と全役員の 1/3 超となります。これにより、少数株主を意識したガバナンスをさらに強化できると考えています。

以 上